

(別紙様式例 3)

放課後等デイサービス事業に係る自己評価結果公表用

公表日：令和 6年 2月29日

事業所名： 東予こどもデイ青空

事業所スタッフ及び保護者の皆様のご意見を踏まえ、自己評価の結果を公表します。

(西条市 大町)

評価を踏まえて、事業所の運営における課題点及び改善すべき点を確認し、今後の運営に活かして参ります。

区分	チェック項目	事業所の現状評価				保護者の方の評価					評価を踏まえた 改善内容・改善目標
		はい	どちら ともい えない	いいえ	工夫した点、改善点	はい	どちら ともい えない	いい え	わから ない	保護者の方のご意見	
環境・ 体制 整備	1 利用定員に応じた指導訓練室等スペースの十分な確保 ①	○			定員10名利用の際は、室内・室外に分かれたりする配慮が必要だが、特に不便ではない。	89%			11%		・2階部分の使用については課題が多く、依然として見通しがたっていない。
	2 職員の適切な配置 ②	○			法定人数を守りつつ、利用児の特性に合った人員配置をしている。 資格によってシフト調整があり、年休がなかなか取りづらい状況。	83%	6%		11%		・引き続き、安全確保と支援の質向上のため、余裕ある配置に努めます。
	3 本人にわかりやすい構造、バリアフリー化、情報伝達等に配慮した環境など障がいの特性に応じた設備整備 ③	○			プレイルーム、カームダウン室、スタッフルームに分かれているが、シンプルで利用児に解りやすい環境だと思う。	78%	11%		11%		・今後も利用児の特性に合わせた環境整備・情報伝達方法の改善に努めます。
	4 清潔で、心地よく過ごせ、子ども達の活動に合わせた生活空間の確保 ④	○			毎日徹底した清掃と除菌、換気に努めている。リラックスできるハンモックは大好評だが、利用児の特性を考慮して、必要に応じ撤去している。	78%	11%		11%		・引き続き、コロナ等感染症対策の徹底を図って参ります。
業務 改善	1 業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）への職員の積極的な参画 ⑤	○			広く職員が参画していると思うが、実際のところはわからない。						・シフト勤務のため全員参画の工夫を凝らして、引き続きチーム大町で取り組みます。
	2 第三者による外部評価を活用した業務改善の実施 ⑥			○	第三者評価を受審していない。						・第三者外部評価はハードルが高いですが、今後も外部機関との連携を図り業務改善に取り組みます。
	3 職員の資質の向上を行うための研修機会の確保 ⑦	○			毎月外部講師を招いて、リモートや対面での社内研修を行っている。						・一部のスタッフは、保育士資格取得にチャレンジします。

適切な支援の提供	1	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上での放課後等デイサービス計画の作成 ⑧	○			もっと色々なアイデアを出し合って、計画策定に携わってきたい。	89%			11%	・定期モニタリングに加え、送迎時や電話等での意見交換の機会を捉えて利用児の変化とニーズの把握に努めます。	
	2	放課後等デイサービス計画における子どもの支援に必要な項目の設定及び具体的な支援内容の記載 ⑨	○			利用児の支援に必要な項目の設定や支援内容をスタッフ全員で、もっと勉強しないといけない。	89%			11%	・引き続き、計画がガイドラインに沿ったものになっているか？再確認します。	
	3	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせた放課後等デイサービス計画の作成 ⑩	○			放デイ計画を作成出来るように、スキルアップを図りたい。						・引き続き、個別と集団の組み合わせ・バランスを考慮した個別支援目標となっているか、再確認します。
適切な支援の提供 (続き)	4	放課後等デイサービス計画に沿った適切な支援の実施 ⑪	○			計画に沿ってはいるが、利用児の成長などで目標が変わってくることがある。	83%			17%	・定期的に計画の内容をチェックして、ズレが生じていないか、検証・修正していきます。	
	5	チーム全体での活動プログラムの立案 ⑫	○			ミーティングで、利用児の特性などを考慮して立案するよう努めているが、担当が決める時がある。					・感染症対策のため制約が多い中ですが、チーム大町でのフリートークで妙案を出し合いたい。	
	6	活動プログラムが固定化しないような工夫の実施 ⑬	○			出来るだけ固定化しないようにはしているが、ルーティンが必要な利用児がいるため、固定化してしまう場合もある。	89%			11%	・感染症対策の制約がありますが、利用児のブームや職員の奇抜なアイデアをもとに、月間予定に反映させ、個々の支援計画にもリンクさせていきたい。	
	7	平日、休日、長期休暇に応じたきめ細やかな支援 ⑭	○			課題は設定していますが、その日その日で状況が変わるので、きめ細かくは難しい時がある。						・利用児の特性や課題を把握の上、利用頻度に応じた活動を計画・実施につなげたい。
	8	支援開始前における職員間でその日の支援内容や役割分担についての確認の徹底 ⑮	○			毎日ミーティングを行って話し合い、利用児の特性に合わせたリスク回避対策も確認している。						・これまで同様毎日のミーティングを行い、活動内容、安全感染対策の確認周知の上、チーム大町で支援にあたります。
9	支援終了後における職員間でその日行われた支援の振り返りと気付いた点などの情報の共有化 ⑯	○			振り返りは、職員同士が自然に話し合える環境にしている。 全員揃っての振り返りが難しいので、共有ノートへの記録、全員へのメール報告など、共有に努めています。						・これまで同様一日の振り返りをしっかり行い、整理して記録にとどめ、より良い支援方法の検討や利用児の現状把握を行い、課題を炙り出し、支援に活かします。	

	10	日々の支援に関する正確な記録の徹底や、支援の検証・改善の継続実施 ⑭	○			シフト勤務のため、より詳細な記録を後日補足するなどして、記録に努め、活動後の振り返りをしている。													・感染症対策における記録の重要性も増しているため、正確詳細な記録により、変化を見逃さず、支援の改善につなげたい。	
	11	定期的なモニタリングの実施及び放課後等デイサービス計画の見直し ⑮	○			定期的実施を継続していますが、利用児の生活環境が大きく変化しそうな際には、先行実施します。													・現在は定期的開催としているが、利用児の顕著な変化が見られる時は、先手の見直しを実施します。	
関係機関との連携	1	子どもの状況に精通した最もふさわしい者による障害児相談支援事業所のサービス担当者会議への参画 ⑯	○			児発管が主ですが、必要に応じ、担当児童指導員も参加します。													・同左	
	2	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援の実施 ⑰				対象児がいません。														
関係機関との連携 (続き)	3	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制の整備 ⑱				対象児がいません。														
	4	放課後等デイサービス事業所からの円滑な移行支援のため、保育所や認定こども園、幼稚園、小学校、特別支援学校(小学部)等との間での支援内容等の十分な情報共有 ⑲	○			情報共有は出来るだけ関係機関に求めているが、きちんと連携がとれていない時がある。														・主な内容は相談支援専門員から得るが、学校お迎え時などの機会を捉えて、情報共有の深掘りを行いたい。
	5	他の障害福祉サービス事業所等への円滑な移行支援のため、それまでの支援内容等についての十分な情報提供 ⑳	○			情報を求められれば情報提供を行っている。														・主な内容は相談支援専門員が担うが、必要に応じて情報提供と連携を行っていききたい。
	6	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携や、専門機関での研修の受講の促進 ㉑	○			助言や研修を受けるチャンスが欲しい。														・専門機関とは、診断書など文書中心となるが、必要に応じこちらから積極的に課題に資するアドバイスを求めている。
	7	放課後児童クラブや児童館との交流など、障がいのない子どもと活動する機会の提供 ㉒	○			近くの公園で鬼ごっこなどをしていると、地域の子供達が入ってくれるので、活発に一緒に遊んでいます。	22%	11%	6%	61%										・引き続き、公園やお出掛けの時、出会った地域の子供達とのスムーズで友好的な交流を心掛けていきます。

	8	事業所の行事への地域住民の招待など地域に開かれた事業の運営 ㉔	○		自治会に加入しているため、子ども達の様子気にかけてくださる方はいますが、地域住民を招待するのは難しいと思う。							・引き続き地域に住む方々とのコミュニケーションを取る様、心掛けていきます。
保護者への説明責任・連携支援	1	運営規程、支援の内容、利用者負担等についての丁寧な説明 ㉕	○			94%					6%	・利用契約締結時には説明資料を用いて、丁寧な説明を心掛けています。
	2	放課後等デイサービス計画を示しながらの支援内容の丁寧な説明 ㉖	○			94%					6%	・アセスメント内容を確認しながら、支援の目標、支援方法などの丁寧な説明を心掛けます。
	3	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対するペアレント・トレーニング等の支援の実施 ㉗	○		まずは気軽にお話ができる関係から、共感共有に向かう信頼関係の構築を目指したい。	49%	28%	6%	17%			・依然力不足のため、お話を拝聴するスタンスですが、ご家族のお気持ちに寄り添い、視点を変えた楽しい提案等が出来る様、努めたい。
保護者への説明責任・連携支援（続き）	4	子どもの発達の状況や課題について、日頃から保護者との共通理解の徹底 ㉘	○		利用児の状況を利用時に口頭や写メールでお伝えし、また保護者のお考えも得て、共通理解を図っていききたい。	89%					11%	・これまで以上に、利用児の状況を保護者様に積極的に発信して、また感想を伺い、共通理解を深めていききたい。
	5	保護者からの子育ての悩み等に対する相談への適切な対応と必要な助言の実施 ㉙	○		助言ができるようになりたい。	83%	6%				11%	・引き続き、保護者様からの相談に適切に応じられるよう、知識やスキルを身に付けたい。
	6	父母の会の活動の支援や、保護者会の開催による保護者同士の連携支援 ㉚	○		道路向かいにお洒落なカレー屋さんが出来、テイクアウトも可能なため、保護者ランチ会が出来れば？ とのアイデア止まりだったので、何とかしたい。	6%	22%	28%	44%	・必要があれば学校の座談会などに参加するので問題ないです。 ・送迎をお願いしているため、他の保護者と顔を合わせる機会がないのは致し方ないと思う。	・引き続き、感染症対策を講じた上で、交流や研修の機会を得ていきたい。	
	7	子どもや保護者からの苦情に対する対応体制整備や、子どもや保護者に周知及び苦情があった場合の迅速かつ適切な対応 ㉛	○		気軽にお互い文句を言い合える関係性が一番と思う。	56%				44%	・苦情はないです。	・引き続き担当者を中心に対応にあたり、保護者様等からのご意見を真摯に受け止め、より良い施設運営を目指します。周知についても対応したい。
8	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮 ㉜	○		情報伝達にタイムラグが生じる時があるため、その回避やフォローに努めている。	94%						6%	・引き続き保護者様、利用者様の実態に合わせ、直接お話をしたり、ICT機器を用いて意思疎通、情報伝達に努めます。

()	9	定期的な会報等の発行、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報についての子どもや保護者への発信 ㉟	○		月毎の活動予定をお知らせをしている。もっと細かく情報を発信するように努めたい。	61%	11%	28%		・時季をみた発信と毎月の行事予定のお知らせは実施しています。今後、安全確保のための各種マニュアルと関連付けた注意事項等の発信に努めていきたい。	
	10	個人情報の取扱いに対する十分な対応 ㊱	○		顔写真の取扱い範囲について、家族の意向を確認しました。	78%		22%		・引き続き、個人情報の取り扱いには十分注意して参ります。	
非常時等の対応	1	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルの策定と、職員や保護者への周知徹底 ㊲	○		職員が周知しているマニュアルはあるが、保護者には周知されていないので、周知できるようにしたい。	55%	17%	28%	・感染症以外に関しては、よくわかっていない。	・引き続き、自然災害や感染症など、各時季に応じた注意点や対応などを保護者様に発信していきます。	
	2	非常災害の発生に備えた、定期的に避難、救出その他必要な訓練の実施 ㊳	○		年3回の避難訓練を行っています。	50%	11%	39%		・なるべく参加児に偏りがないようにしながら、年3回以上の訓練を行っています。実施した際には、ご家庭への報告を徹底していきます。	
非常時等の対応	3	虐待を防止するための職員研修機会の確保等の適切な対応 ㊴	○		福祉現場での虐待・事件事故ニュースを見聞きしますが、うちは大丈夫か？ と問いつつ、毎日のミーティングで、お互い不適切な言動がなかったか？ 振り返っています。					・引き続き、年2回職員全体の虐待防止研修会と関連機関が開催する研修会への参加を続けるとともに、振り返りをおこないながら、日常の支援に活かすよう努めます。	
	4	やむを得ず身体拘束を行う場合における組織的な決定と、子どもや保護者に事前に十分に説明・了解を得た上での放課後等デイサービス計画への記載 ㊵	○		現在対象児はいないが、身体拘束や行動制限の必要性を内部で議論し、保護者への説明、書面同意、個別支援計画に記載し経過を記録している。終了時も同様。					・同左	
(続き)	5	食物アレルギーのある子どもに対する医師の指示書に基づく適切な対応 ㊶	○		現在対象児はいませんが、医師の指示書を見る機会をつくりたい。					・現在対象児はいませんが、ご家族や主治医から情報を収集、精査し、適切な対応を行います。	
	6	ヒヤリハット事例集の作成及び事業所内での共有の徹底 ㊷	○		ヒヤリハット事例をもっと多く作成し共有していきたい。					・引き続き、ヒヤリハット事例を記録し、その要因を分析した上で今後の対応策をしっかりと話し合い、日々の支援の中で、再発防止に全力で努めます。	
満足度	1	子どもは通所を楽しみにしているか㊸				100%				・いつも寄り添って頂いて感謝しています。 ・夏休みの利用時には、送迎の1時間くらい前から車が来るのを眺めて待つほど楽しみにしている。	・引き続き、100%を目指します。
	2	事業所の支援に満足しているか㊹				89%		11%			・ご指摘を受け止め、引き続き100%を目指します。